



海岸にたたずむ巨大な岩の象  
象岩



指定区分	国指定天然記念物
読みかた	ぞういわ
所在地	倉敷市下津井(六口島)
指定年月日	昭和7年7月23日
解説	<p>下津井港から南西約4kmの六口島にある。その姿は、あたかも海辺に下り立った象が水を飲もうとする姿に似ているため、「象岩」と呼ばれている。花崗岩の塊が永年にわたって風化し、風や波の浸食を受けて形成された自然の奇岩で、高さは約8mある。動物に似た岩塊は多いが、象岩ほど雄大で酷似しているものはない。池田家文書にも宝永元年(1704)の「六口島象岩の図」がある。</p>
アクセス方法	児島観光港から渡船で約20分(有料)
公開状況	自由
設備	<p>児島観光港共同駐車場</p> <p>トイレ  駐車場 </p>
備考	

## きつずページ



していくぶん (指定区分)	国指定天然記念物
ぶんかざいめい (文化財名)	象岩
よみかた	ぞういわ
しょざいち (所在地)	倉敷市下津井(六口島)
していつひ (指定した日)	昭和7年7月23日
せつめい	海岸(かいがん)のそばある巨大(きょだい)な花崗岩(かこうがん)という岩が、長い時間をかけて、風や波の力によって削(けず)られていき、ゾウの姿(すがた)のようになったものです。高さはおよそ8メートルもあります。